

専門基礎分野

授業科目名	癒しの科学			担当教員	廣納 裕子
開講時期	3 年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／15 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術を基に、基礎技術の習得のための実践的な授業を行う

目的	ケアの隣接領域である「癒し」について幅広く学ぶ。看護職に関係の深い「癒し」について科学的な視点から基礎知識を習得する。
目標	癒しの概念を理解し、看護に活かせる方法を知る。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	「癒し」の概念 「癒し」と看護	「癒し」とは。 「癒し」と看護
2	/	「癒し」のメカニズム	自律神経系・内分泌系のはたらき 五感への働きかけ
3	/	「癒し」の種類・方法	アロマセラピー・ヒーリング・音楽療法・タッチング 他
4	/	「癒し」の体験	ヒーリング
5	/	「癒し」の体験	アロマセラピー リフレクソロジー
6	/	「癒し」の実践	整膚
7	/	「癒し」の実践とまとめ	「癒し」を看護に活かすには
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		なし	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

授業科目名	看護過程			担当教員	根井 ひとみ
開講時期	1年次後期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／30 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術を基に、基礎技術の習得のための実践的な授業を行う

目的	看護の目的を達成するために、看護過程のプロセスを理解する。
目標	1. 看護過程を使って看護を行う利点とその使い方を理解し活用できる。 2. 健康上の問題を明らかにし、問題を解決するための一連の過程が理解できる。 3. 模擬患者（紙上事例）に対して看護過程を展開できる。
評価方法	1.筆記試験（90％） 2.授業への参加態度・状況（10％）

回	日時	授業内容	内容
1	/	看護過程とは	看護過程とは ①看護過程とは ②看護過程の意味
2	/	看護過程とは	①看護過程の5つの構成要素 ②5つの構成要素の関係性 ③看護過程を用いることの利点
3	/	看護過程を展開する際に基盤となる考え方	①問題解決過程 ②クリティカルシンキング
4	/	看護過程を展開する際に基盤となる考え方	③倫理的配慮と価値判断 ④リフレクション
5	/	看護過程展開の各段階	①アセスメント(情報の収集と分析) ②看護問題の明確化(看護診断)
6	/	看護過程展開の各段階	③看護計画 ④実施
7	/	看護過程展開の各段階	⑤評価
8	/	看護記録	①看護記録とは ②記載・管理における留意点
9	/	看護記録	③看護記録の構成
10	/	ヘンダーソンの理論を用いた看護過程の展開	①看護過程ってなに ②ヘンダーソンが考える看護 ③ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の学び方
11	/	ヘンダーソンの理論を用いた看護過程の展開	④ヘンダーソンの考えに基づいて看護過程を使ってみよう ⑤基本的看護の充足した状態および情報収集
12	/	紙上事例を用いて看護過程の展開	【事例展開】
13	/	紙上事例を用いて看護過程の展開	【事例展開】
14	/	紙上事例を用いて看護過程の展開	【事例展開】
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) 秋葉公子他「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際」(ヌーヴェルヒロカワ) 江崎フサ子他「ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト」(ヌーヴェルヒロカワ)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	シミュレーション技術Ⅱ			担当教員	夏堀 のぞみ
開講時期	1年次後期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／15 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術を基に、基礎技術の習得のための実践的な授業を行う

目的	基礎看護学実習Ⅰ-2の実習に向けて、今まで学んだ科目の内容や看護技術を確認し、対象者に実施できるように学習する。
目標	1. フィジカルアセスメントができるようになる。 2. 日常生活援助の基本的な技術を模擬患者に対して安全安楽に実践できる。 3. 自身の技術不足を明確にし、振り返りができる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	ガイダンス	①シミュレーション学習の目的・目標を理解する。 ②失敗が許される学習環境下で安全な看護を提供する意味について説明する。
2	/	シミュレーション学習	事例① 模擬患者に対し、フィジカルアセスメント実施、必要な日常生活援助を導き出す。 援助の行動計画を立てる。
3	/	シミュレーション学習	前日の模擬患者に対し、援助を実施する。
4	/	シミュレーション学習	事例② 模擬患者に対し、フィジカルアセスメント実施、必要な日常生活援助を導き出す。 援助の行動計画を立てる。
5	/	シミュレーション学習	前日の模擬患者に対し、援助を実施する。
6	/	グループワーク	事例①、事例②に対して実施した内容から自己のスキルについて振り返りをする。
7	/	全体のまとめ	基礎看護学実習Ⅰ-2に向け、どのような姿勢で臨むかを皆でグループワークし、発表する。
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。		
使用テキスト:	有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)		
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。		

授業科目名	看護学概論 I			担当教員	根井 ひとみ
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間
実務経験のある教員等による授業科目					

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術を基に、基礎技術の習得のための実践的な授業を行う

目的	看護学の基礎概念である人間・環境・健康から看護の歴史の変遷、理論を通して、「看護とは何か」について理解を深めることができる。また、専門職としての看護の役割と看護活動の実践が理解できる。
目標	1. 歴史的変遷や看護論を通して、看護の概念について理解できる 2. 看護の対象を生活者として健康や環境と関連づけ総合的に理解する
評価方法	筆記試験(100%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	看護とは	①看護の本質 ②看護の役割と機能
2	/	看護とは	③看護の継続性と情報共有
3	/	看護の対象の理解	①人間の「こころ」と「からだ」
4	/	看護の対象の理解	②生涯発達しつづける存在としての人間 ③人間の「暮らし」の理解
5	/	国民の健康状態と生活	①健康のとらえ方
6	/	国民の健康状態と生活	②国民の健康状態 ③国民のライフサイクル
7	/	看護の提供者	①職業としての看護 ②看護職の資格・養成制度・就業状況
8	/	看護の提供者	③看護職者の継続教育とキャリア開発 ④看護職の養成制度の課題
9	/	看護における倫理	①現代社会と倫理 ②医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理
10	/	看護における倫理	③看護実践における倫理問題への取り組み
11	/	看護の提供のしくみ	①サービスとしての看護 ②看護サービス提供の場
12	/	看護の提供のしくみ	③看護をめぐる制度と政策 ④看護サービスの管理 ⑤医療安全と医療の質保証
13	/	広がる看護の活動領域	①国際化と看護
14	/	広がる看護の活動領域	①災害時における看護
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		茂野香お他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論」(医学書院) 助川尚子訳「ナイティンゲール看護覚え書き書 決定版」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	成人看護学方法論Ⅱ (健康危機状況時の看護)			担当教員	古川 弘美
開講時期	2年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術を基に、基礎技術の習得のための実践的な授業を行う

目的	急激な健康レベルの低下や生命の危機状態にある対象の治療や手術療法を学ぶ。 対象者の身体的・心理的・社会的課題を明確にし、科学的思考に基づいた看護臨床判断能力を養う。
目標	1. 健康状態が急激に変化する患者、生命の危機状態に在る患者の身体的・心理的・社会的課題を理解し、科学的根拠に基づいた看護援助の必要性がわかる。 2. 外科の治療を受ける患者の特徴と理解を深め、看護師の果たすべき役割を理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	今日の外科看護の特徴と課題 外科医療の基礎	外科看護の対象と目的 外科看護の役割と課題 外科看護の流れ 外科治療の特徴と変遷 手術侵襲と生体の反応 炎症 感染症 創傷治療
2	/	周術期看護の概論	手術を受ける患者の状況 チーム医療と看護師の役割 インフォームドコンセント 周術期における安全管理 院内感染予防
3	/	手術前患者の看護	外来診療の変化に対応した外来看護師の役割 外来における手術前の患者の看護 手術前の具体的援助
4	/	手術中患者の看護	手術中の看護の要点 手術室における看護の展開 手術室の環境管理
5	/	手術後患者の看護	手術後の回復を促進するための看護 術後合併症の発生機序
6	/	手術後患者の看護	おこりやすい術後合併症の予防と発症時の対応 形態変化や機能障害に対する適応への援助
7	/	肺および胸部	肺・胸部の疾患 肺・胸部疾患患者の看護
8	/	心臓および脈管系	心臓脈管系の疾患 心臓・脈管系疾患患者の看護
9	/	消化器および腹部	消化器・腹部の疾患 消化器・腹部疾患患者の看護
10	/	脳および神経	脳・神経の疾患 脳・神経疾患患者の看護
11	/	頭部および頸部の疾患	頭部・頸部の疾患 頭部・頸部疾患患者の看護
12	/	看護事例展開①	事例紹介
13	/	看護事例展開②	問題リスト・看護計画
14	/	看護事例展開③	発表
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		矢永勝彦編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」(医学書院) 北島政樹編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	医療安全			担当教員	池上 吾郎
開講時期	3 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術を基に、基礎技術の習得のための実践的な授業を行う

目的	医療現場における事故を通し、患者の安全及び組織としての安全を守ることの重要性について理解を深める。
目標	1. 事故防止の基本的な考え方がわかる。 2. 診療の補助・療養上の世話の事故防止を理解する。 3. 労働安全衛生上の事故防止を理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	事故防止の考え方を学ぶ	A. 医療事故と看護業務 B. 看護事故の構造 C. 看護事故防止の考え方
2	/	診療の補助時の事故防止	A. 業務特性からみた患者の投与する業務の事故防止 B. 注射業務と事故防止 C. 注射業務に用いる機器での事故防止 D. 輸血業務と事故防止
3	/	診療の補助時の事故防止	E. 内服与薬業務と事故防止 F. 経管栄養業務と事故防止 G. チューブ管理と事故防止
4	/	療養の世話の事故防止	A. 療養上の世話における2群の事故のとらえ方と防止 B. 転倒・転落防止事故
5	/	療養の世話の事故防止	C. 摂食中の窒息・誤嚥事故防止 D. 異食事故防止 E. 入浴中の事故防止
6	/	医療安全とコミュニケーション	A. 不正確・不十分なコミュニケーションは事故の重要要因 B. 事故防止のための医療機関のコミュニケーション C. 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション D. 事故の未然防止上重要なコミュニケーション
7	/	看護師の労働安全衛生上の事故防止	A. 職業感染 B. 抗がん剤の曝露防止 C. 放射線被曝 D. ラテックスアレルギー E. 院内暴力
8	/	試験	
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		川村治子「系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2] 医療安全」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	在宅シミュレーション技術			担当教員	笹倉 文
開講時期	3 年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／15 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師・保健師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術を基に、基礎技術の習得のための実践的な授業を行う

目的	療養者に必要な在宅看護が実践できる基本的な能力を養う。また、看護師の役割、態度を学ぶ。
目標	1. 訪問シミュレーション学習をふまえて在宅看護過程が理解できる。 2. 在宅訪問時のマナーおよび面接技術がわかる。 3. 訪問看護の基本的マナーをふまえた初回訪問が実施できる。
評価方法	1.筆記試験(70%) 2.課題・レポート(30%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	講義	1) 在宅訪問時の心構え・身だしなみ・態度及び行動 2) 訪問看護倫理要綱 3) シミュレーション演習の説明
2	/	講義	初回訪問時のマナー ～療養者・家族との信頼構築を築くために～ 住環境のアセスメントの視点
3	/	講義	在宅看護過程の考え方
4	/	演習	訪問看護ステーション設置 管理、規定に基づいたステーション作成
5	/	演習	
6	/	演習	事例より 初回訪問の実施
7	/	講義	訪問看護の変遷
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		河原加代子他「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤」(医学書院) 河原加代子他「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の実践」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	精神看護学方法論Ⅱ			担当教員	樋口 喜代美
開講時期	2 年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／30 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術を基に、基礎技術の習得のための実践的な授業を行う

目的	看護ケアの原則を学び、入院環境を整える重要性、心理的・身体的なケアのもつ意味を理解する。また、基本的な看護について学ぶ。
目標	1. 人間関係を土台に精神看護の果たす役割が理解できる 2. 精神障害者の社会復帰、地域との結びつき、重要性について理解できる
評価方法	1.筆記試験(100%)

回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	第 11 章 入院治療の意味①	精神科を受診すること	樋口
2	/	第 11 章 入院治療の意味②	治療の器としての病院・病棟	樋口
3	/	第 11 章 入院治療の意味③	入院中の観察とアセスメント	樋口
4	/	第 11 章 入院治療の意味④	ケアの方向性を考える	樋口
5	/	第 11 章 入院治療の意味⑤	退院に向けての支援とその実際	樋口
6	/	第 12 章 身体をケアする①	精神科における身体のカ	樋口
7	/		精神科における身体を通した看護ケアの実際	樋口
8	/	第 12 章 身体をケアする②	精神科の治療に伴う身体のカ	樋口
9	/		身体合併症のアセスメントとケア	樋口
10	/	第 10 章 地域におけるケアと支援	「器」としての地域、地域における生活支援の方法	樋口
11	/	第 10 章 地域におけるケアと支援	地域における生活支援の方法、ケアの方法と実際	樋口
12	/	第 10 章 地域におけるケアと支援	学校におけるメンタルヘルスと看護 職場におけるメンタルヘルスと精神看護	樋口
13	/	第 13 章 安全をまもる	緊急事態に対処する	樋口
14	/	第 13 章 安全をまもる	緊急事態とスタッフの支援	樋口
15	/	試験	筆記試験	樋口
履修者へのコメント:				
使用テキスト:		武井麻子編「系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開」(医学書院)		
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。		

専門分野

授業科目名	母性看護学概論			担当教員	篠原 由加梨
開講時期	1年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師・助産師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術を基に、基礎技術の習得のための実践的な授業を行う

目的	母性看護の概念、母性各期の特徴と発達課題を理解し、母性看護の役割を学ぶ。女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を把握し、母性の保健対策を学ぶ。
目標	1. 女性の一生としての母性を、ライフステージ毎に理解できる。 2. 母性看護の変遷と現状が理解できる 3. ライフサイクルにおける女性の健康について理解できる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	母性看護の基盤となる概念	母性とは 母子関係と家族発達 セクシュアリティ リプロダクティブヘルス/ライツ
2	/	母性看護の基盤となる概念	ヘルスプロモーション 母性看護の在り方 母性看護における倫理 母性看護における安全・事故予防
3	/	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	母性看護の歴史的変遷と現状 母性看護の提供システム
4	/	母性看護に必要な看護技術	母性看護における看護過程 情報収集・アセスメント技術 母性看護に使われる看護技術
5	/	女性のライフステージ各期における看護	ライフサイクルにおける女性の健康と看護
6	/	女性のライフステージ各期における看護	思春期の健康と看護
7	/	女性のライフステージ各期における看護	性成熟期の健康と看護 更年期・老年期の健康と看護
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		森恵美編「系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	母性看護学方法論Ⅱ			担当教員	永山 治美
開講時期	2 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師・助産師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術を基に、基礎技術の習得のための実践的な授業を行う

目的	正常に経過する分娩各期の対象の特徴について学ぶ。母子にとって安全・安楽な分娩期を過ごすために、科学的根拠に基づいた分娩各期の基礎的な看護を理解する。
目標	1. 分娩時の看護を理解する。 2. 分娩の経過を理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	分娩期における看護	分娩の要素 ・分娩とは ・分娩の3要素
2	/	分娩期における看護	分娩の要素 ・胎児と子宮および骨盤との関係 ・分娩の機序
3	/	分娩期における看護	分娩の経過 ・分娩の進行と産婦の身体的変化
4	/	分娩期における看護	分娩の経過 ・産婦の身体的変化 ・産痛 ・産婦の心理・社会的変化
5	/	分娩期における看護	産婦・胎児、家族のアセスメント 産婦と家族の看護
6	/	分娩期における看護	分娩期の看護の実際
7	/	分娩期における看護	産婦・胎児・家族のアセスメント ①産婦と胎児の健康状態のアセスメント
8	/	分娩期における看護	産婦と家族のアセスメント ①看護目標と産褥のニーズ
9	/	分娩期における看護	分娩期の看護の実際 ①分娩第1期までの看護 ②分娩第2期までの看護
10	/	分娩期における看護	③分娩第2期の看護 ④分娩第3、4期の看護
11	/	分娩の異常と看護	妊娠持続期間の異常
12	/	分娩の異常と看護	異所性妊娠 ハイリスク妊婦の看護 産道の異常 娩出力の異常
13	/	分娩の異常と看護	胎児の異常による分娩障害 胎児の付属物の異常 胎児の機能不全
14	/	分娩の異常と看護	分娩時の損傷 分娩第3期および分娩直後の異常 分娩時異常出血 産科処置と産科手術
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		森恵美編「系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論」(医学書院) 太田操「ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程」(医歯薬出版株式会社)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	高齢者支援論			担当教員	引地 生美
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術を基に、基礎技術の習得のための実践的な授業を行う

目的	高齢者の特徴と、身体的機能や社会環境が日常生活に及ぼす影響について学ぶ。 倫理的課題、看護職の役割について学ぶ。
目標	1. 高齢者に起こりやすい症状と看護を理解する。 2. 高齢者におけるエンドオブライフケアを理解し、看護師の役割を学ぶ。 3. 様々な療養看護における看護を理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	健康逸脱からの回復を促す看護	症候のアセスメントと看護 身体疾患のある高齢者の看護
2	/	健康逸脱からの回復を促す看護	認知機能障害のある高齢者の看護
3	/	治療を必要とする高齢者の看護	検査を受ける高齢者の看護 薬物療法を受ける高齢者の看護
4	/	治療を必要とする高齢者の看護	手術を受ける高齢者の看護 リハビリテーションを受ける高齢者の看護 入院治療を受ける高齢者の看護
5	/	エンドオブライフケア	エンドオブライフケアの概念 「生ききる」ことを支えるケア 意思決定への支援 末期段階に求められる援助
6	/	生活・療養の場における看護	高齢者とヘルスプロモーション 保健医療福祉施設および居住施設における看護
7	/	生活・療養の場における看護	治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 多職種連携実践による活動
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		北川公子編「系統看護学講座 専門分野 老年看護学」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	